

早稲田大学 政治経済学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	昨年の同学部の問題が簡単だった反動で、近現代の範囲からの出題が難化した。教科書による学習ではまず解けない問題が数多く見られる。過去問を20年分くらい解いて傾向をつかんでいた人には、「ああ、またこのテーマか」と言えることもあつただろうが、どうだっただろう。大問Ⅱの「定高仕法」なども笑って解ける必要がある。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	和氣の清麻呂・加賀の一向一揆	A 5は難問。六角氏は、なぜか今年の早稲田入試では複数の学部で問われている。その意味を考えると入試への対策が見えてくる。他は非常に簡単名問題であった。	やや易
II	近世のキリスト教と外交・経世秘策	A 4はやや難しいが、江戸時代の文化史分野の人物は意外とその時期が問われる。単に寛永期の文化、元禄文化、化政文化の区切りだけではなく、誰の弟子だったか、弟子に誰がいるか、誰に仕えたか、著書を誰に提出したかなど、時期を考えるためのヒントはたくさん存在する。あとはポイントをつかんで学習できているかどうかである。中井竹山が『草茅危言』を松平定信に提出したことは、意外と出題されており、早稲田政経でも1998年に出版されていた。今回はそこから考えるべきであった。B 11は難問。A 8もやや難。	標準
III	立憲国家	A 3・4・8は考えて解かせる問題でやや難しい。A 5は難問。史料(1)(3)に関する問題は即答できるので、史料(2)のみを丁寧に読解する。	やや難
IV	近代の社会運動	A 5・B 3は考えればなんとか解ける。A 6・7は難問。A 6に関しては、ホ(サンジカリスト)ではないかという他の講師からの意見もあつたが、原典ではニ(アナキスト)であった。ちなみに原典の題名は、設問に書かれている『日本社会運動史』ではなく、正確には『日本社会主義運動史』であった。こういうところで誤記はしてほしくないものである。	やや難
V	サンフランシスコ平和条約・新安保条約	A 3は消去法で十分解ける。Bの論述問題は、またもや戦後の1つの内閣を述べさせるものだった。このパターンが次も続くとはかぎらないので注意したい。	やや難